

南部町

西部

南部町

あいみ手間山地域振興協議会

<団体概要>(平成 26 年 4 月現在)  
 住 所 〒683-0201  
 西伯郡南部町天萬 548 番地  
 設 立 平成 19 年 6 月  
 代表者 会長 唯 仁司  
 構成員 会員約 2,557 名  
 集落数 10 集落  
 電 話 0859-64-3790 F A X 0859-64-3790



▲ あいみ手間山地域振興協議会活動拠点

<参考>手間地区の概要(平成 22 年国勢調査)  
 人 口 2,612 人  
 世 帯 数 815 戸  
 高齢化率 26.1 %



唯 仁司会長

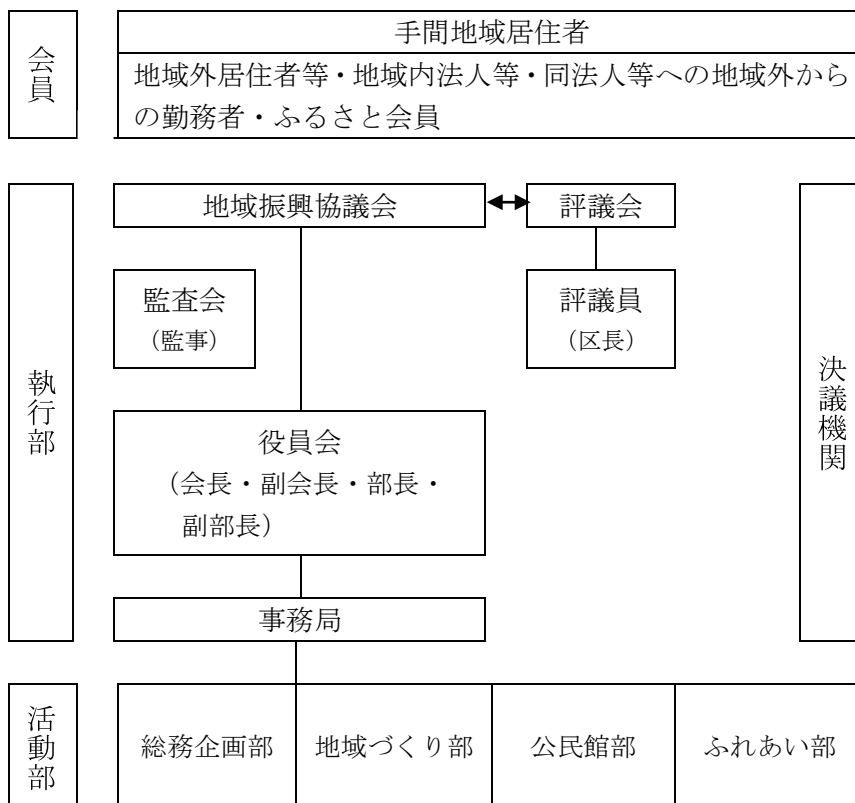
◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

- ・地域の活性化や住民目線で活動していくことは住民の皆さんの協力が不可欠。
- ・子ども達の心を打つ事業を行い、大人にも参加してもらいたい。
- ・子ども達が参加しやすい魅力をもった取組を行いたい。
- ・各部のリーダーの存在を重視し、住民の思いをくみ取って事業に反映させていきたい。

主な取組の概要

- ・《エコツーリズム》トレッキングコースを整備し、町内外の方々が森林浴と野鳥の鳴き声を聞きなが楽しんでいただけるように、樹木プレートやブッポウソウの巣箱を設置した。また、登山時に利用できるよう杖を置いた。
- ・《グリーンツーリズム》遊休農地解消に向け、てま山農園を設置した。非農家の方や南部中学校の生徒さん、ボランティア、協議会で無農薬野菜を生産し、「ふれあい部」が高齢者の見守りや交流を兼ねて、野菜をお届けをしている。
- ・地域づくり計画に基づいて、「総務企画部」は生活と暮らし、「地域づくり部」は環境衛生、「公民館部」は教育文化、「ふれあい部」は健康福祉の4つの分野を基に地域の目標として、事業を推進している。

◆ 組織図 ◆



◆ 刊行物 ◆



▲ 神話と遺跡のふれあい散策コースガイド



▲ 第二期 地域づくり計画書

◆ 活動写真 ◆



▲ 要害山トレッキングコース



▲ てま山農園



▲ 防犯パトロール隊(総務企画部)



▲ 史跡散策ツアー  
(公民館部)

取組に至る背景・経緯・目的

- ・「手間ひまかけて育もう、地域の絆、地域のほこり」を合言葉に、安心安全な地域、明るく活気ある地域を創造することを目的として、平成19年6月に設立された。
- ・地域づくり計画に基づいた事業を策定し、住民の皆さんが参加しやすい事業を企画し交流を図る。

取組の成果

- ・歴史や史跡が多く、地域資源として保全や活用するため「散策コースガイド」を作成した。史跡めぐりや自然体験、森林浴の体感を通して、故郷に愛着と誇りを持つように、次世代に引き継いでいる。
- ・花の育成やカーブミラーの清掃活動、不法投棄防止啓発看板設置などを行い、地域の環境美化や交通安全対策につながっている。
- ・防犯パトロールや地域の見守りを行い、安全・安心に暮らせる地域づくりの強化になった。
- ・様々な事業の実施により住民間のふれあいや交流ができた。

取組に工夫・苦労した点

- ・協議会の部員の任期が1年間なので、共通認識が高まるまでに時間がかかる。
- ・公民館のイベントなどと連携し、スポーツ大会で競技する楽しさと交流を深めた。

今後の取組内容・長期的な目標

- ・自然体験を大切にし、自然と歴史を活かした事業を展開したい。
- ・子どもや若者が参加しやすい事業を考えたい。
- ・今後も住民との交流が深まり、地域に定住してくださる方が増えていくよう努力していきたい。



◀ 不法投棄の  
清掃作業  
(地域づくり部)

手間地区敬老会 ▶  
(ふれあい部)





西部

南部町

東西町地域振興協議会

<団体概要>(平成26年4月現在)  
 住所 〒683-0301 西伯郡南部町東町62番地  
 設立 平成19年7月  
 代表者 会長 原 和正  
 構成員 東西町地区405戸  
 集落数 4集落  
 電話 0859-66-4724 FAX 0859-66-4724



▲ 東西町地域振興協議会活動拠点

<参考>東西町地区の概要(平成22年国勢調査)  
 ・人口 1,204人 ・世帯数 422戸  
 ・高齢化率 29.4%



原 和正会長

◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

・地区の一番の財産は「人材」だと思っている。活動を支えていただいている地域の方々の力が発揮できる環境づくりに努めて行きたい。

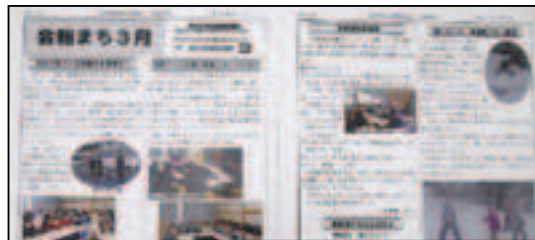
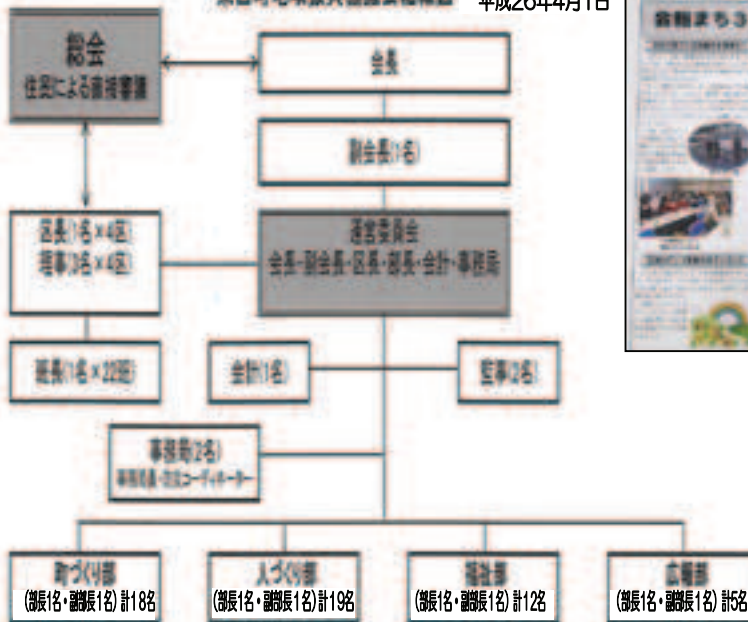
主な取組の概要

- ・独居高齢者などの見守り活動を行っている。60人の独居高齢者を、延べ93人の見守り人が日常的に見守っている。
- ・地域内の青パト防犯パトロールを定期的に行い、夏休みは青少年育成会と中学育成会で夜間パトロールもしている。
- ・災害時の要援護者支援として、定年退職者や主婦などに災害時安否確認協力委員(計42人)を委嘱し、災害発生時の要援護者安否確認や避難の補助などを行っている。
- ・平成25年6月に地域で運営する、東西町コミュニティホーム「西町の郷」が開所した。住み慣れた地域で暮らし続けるための一助として、地域住民の自主的な運営による「第3の住まい」を提供している。施設長と、数人のサポート員が常駐し、食事などのお手伝いを行っている。ニーズに応じて、短期の宿泊や長期の住まいとして利用できる。
- ・地域の子育て支援として、町の補助を受けて放課後児童クラブを地域で運営している。

◆ 組織図 ◆

◆ 刊行物 ◆

東西町地域振興協議会組織図 平成26年4月1日



▲ 会報まち

## ◆ 活動写真 ◆



▲ 防災訓練の様子



▲ 西町の郷(コミュニティホーム)



▲ 西町の郷のスタッフの皆さん



◀ 放課後児童クラブ開設式の様子

### 取組に至る背景・経緯・目的

- ・当地区は昭和 45 年に新しく米子市に隣接する住宅団地として敷地造成されできた。
- ・新しく入居された方々が自治会を結成され、運動会、夏祭りなどを開催し住民同士の交流を図り活力ある活動が行われてきた。しかし、平成 16 年頃には、地区には 75 歳を越した高齢独居の方が多く見られるようになり、何とかしなくてはという声が出ていたが、当時の自治会役員は 1 年から 2 年程度で交代するので、このような課題の解決は先送りになっていた。
- ・平成 19 年 7 月に地域振興協議会が設立され、全戸へのアンケートや、役員会での課題解決検討会などを経て、地区の目標として、子どもから高齢者まで安心して住めるまちを目指す地域づくり計画が作られた。

### 取組の成果

- ・災害時の要援護者支援の取組及び避難訓練は、台風が来た時に出された避難勧告時に有効に機能した。その時の対応が評価され、優秀自主防災組織として県知事表彰を受けた。
- ・東西町コミュニティホーム「西町の郷」は、空き家を借り受け改修することで、利用しやすい料金設定ができた。日中の居場所として、みんなでお話しをしたり、昼食を食べたり、自由な時間を過ごしている。放課後児童クラブとの連携もあり、アットホームな雰囲気になった。

### 取組に工夫・苦労した点

- ・DIG (災害図上訓練) で、地区の災害や防災の特性の把握し、それに基づき防災避難訓練を行った。この訓練で、避難経路や避難方法、避難済みの家の周知方法など実践し、確認することができた。
- ・東西町コミュニティホームの開設にあたり、物件探しに苦労した。また、地域の要望を把握するためのアンケートや、理解を深めるための講演会を行った。

### 今後の取組内容・長期的な目標

- ・これからも地区の皆さんと一緒に取組を絶えず見直し、子どもから高齢者まで鳥取県で一番住みやすいまち、住み続けたいまちを目指して行きたい。



西部

南部町

南さいはく地域振興協議会

<団体概要>(平成 26 年 4 月現在)  
 住 所 〒683-0342  
 西伯郡南部町能竹 394 番地 2  
 設 立 平成 19 年 4 月  
 代表者 会長 遠藤 賢二  
 構成員 会員約 810 名  
 集落数 16 集落  
 電 話 0859-66-5115 F A X 0859-66-5115



▲ 南さいはく地域振興協議会活動拠点

<参考>上長田、東長田地区の概要  
 (平成 22 年国勢調査)  
 ・人口 810 人・世帯数 260 戸・高齢化率 40.3%



遠藤 賢二会長

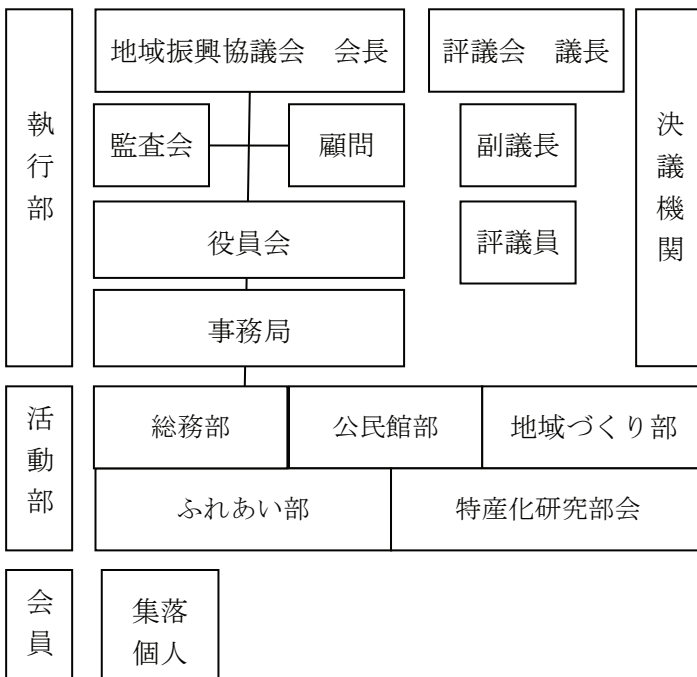
◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

- ・南部町の中で山間部に程近い中山間地で 15 歳未満の人口 0 名の地域が 3 集落あり、地域の永続性に不安がある。
- ・南部町の中で 2 旧村を 1 地区として協議会を立ち上げたのは当振興協議会だけであり、運営上大変なところもあったが、牽引者の活躍により活動の推進ができた。今後も人口減少が推測されるが、協議会活動の参加者が楽しみながら推進できるよう努力したい。

主な取組の概要

- 《安心安全な地域づくり(総務部)》  
 ・共助交通、青パト、地域の行政要望取りまとめ、防災マップづくりや防災組織づくりの推進、防災訓練の応援、除雪、空き家対策。
- 《高齢者対策・少子化対策や健康づくり(ふれあい部)》  
 ・敬老会、配食・見守り活動、集落いきいきサロン応援、合同いきいきサロン活動、交流事業の応援、世代間交流事業の推進、仲人事業等。
- 《伝統文化の継承や地域でのふれあいの場づくり(公民館部)》  
 ・運動会、グランドゴルフ大会、ふるさと巡り、納涼祭、交流事業、サマーキャンプ教室、福祉餅つきやしめ縄作り教室、地域伝統文化の記録保存等。
- 《豊かな自然環境を守りじげ起こしの推進(地域づくり部)》  
 ・環境見守り・ゴミ減量コンポスト推進、かまくら収穫祭、特産品開発等。
- 《ウド等山菜の特産化づくりの推進(特産化研究部会)》  
 ・ウド生産班、イベント班、開発班、ウド加工品製造班、踊りの会。

◆ 組織図 ◆



◆ 刊行物 ◆



▲ 広報誌『かまくら』



▲ 南さいはく かまくら 地域づくり計画

◆ 活動写真 ◆



▲ 共助交通(集落から近くのバス停まで送迎) (総務部)



▲ 明道公民館との交流キャンプ (公民館部)



▲ 炭づくり教室(地域づくり部)



▲ ほたもち配布の準備(ふれあい部)



▲ ウドの食味会



◀ ウド羊羹 (特産化研究部会)

取組に至る背景・経緯・目的

- ・平成16年10月会見・西伯町が合併した。行政からの提唱により、南部町の旧村地域を基本に7地区に区域割りをし、責任と誇りを持って地域づくりに取り組む地域振興協議会組織を立ちあげ住民自治組織の運営を担う。
- ・南さいはく地域振興協議会は、旧上長田村・旧東長田村の2旧村地域を1つの協議会とした区域で16集落938名296世帯で発足した。
- ・組織づくりには、旧2村を1つにまとめる目標をもち、準備会を立ち上げた。規約、目標、名称、組織体制、役員等の体制づくりに約1年かけ、協議を重ね、平成19年4月15日誕生式典を開催した。

取組の成果

- ・集落からも地域振興協議会に対して活動のよりどころとして認知や期待度が高まり活動が幅広くなってきた。
- ・災害時、お互いを助けたり、応援したりする体制ができたことは、地域一体化の現れ。
- ・共同事業において、地域が分け隔てなく参加し活動できるようになった。
- ・いきいきサロンにおいても、他集落の役員がスタッフとして応援していただけるようになった。
- ・振興協議会から情報を発信していくことで、集落間の行政支援の格差が縮まってきた。

取組に工夫・苦労した点

- ・集落を越えた自治組織は初めてで、自立に対する疑念が生じていたが、情報発信をしていくことで、年々解消できつつある。
- ・地域完結型ではできないこともあり、行政と連携していかなければならない部分があるが、行政だけでは人材が不足しているのが課題。
- ・地域の人口減が進み、地域活動計画に対しスタッフ不足で計画推進が難しくなってきた。
- ・運営方法を検討し、スタッフが楽しみながら活動に参加できる方法を追求していきたい。

今後の取組内容・長期的な目標

- ・特産品開発による地域の元気づくり。
- ・地域の安心・安全な組織づくり。
- ・集落内に住民同士のふれあいの場づくり。
- ・交流人口促進によるUIJターン者の受入体制づくり。
- ・空き家や耕作放棄地の利活用。
- ・豊かな自然を生かした癒しと潤いのある地域づくり。